

姫路市立図書館だより

# 城影



発行 姫路市立城内図書館

兵庫県姫路市本町68-258

電話 079-289-4884

2022年 12月号

## ♪「冬におすすめの本」「クリスマスの本」展示中♪

小学生・中学生の各学年向けに、クリスマスや冬の季節にぜひ読んでほしいおすすめの本を展示しています。また、学年ごとのリストも配布しています。どうぞお役立てください。

## 🚀宇宙関連図書コーナー☆

城内図書館・各分館で、宇宙に関する本の展示を行っています。

期間：11月10日（木曜日）から12月11日（日曜日）まで

～小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル特別展 in アクリエひめじ～連携展示

## 年末年始の休館のお知らせ

12月28日（水曜日）から来年1月4日（水曜日）まで全館休館します。  
本の返却は、返却ポストをご利用ください。

また12月14日（水曜日）から12月27日（火曜日）までの間は  
貸出期間が3週間になります。

この機会にぜひお正月休みに読む本をお借りください。

新型コロナウイルスの感染対策のため  
変更する場合があります。詳細は図書館  
ホームページまたは各館まで。

## 12月・1月 図書館カレンダー（■が休館日）

12月 December 師走						
城内図書館			分館			
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月 January 睦月						
城内図書館			分館			
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※白浜分館は令和5年8月末(予定)まで休館

ご存知ですか？

## 国立国会図書館

# 個人向けデジタル化資料送信サービス

なんだか難しい名前ですがこれは何かといいますと、国立国会図書館のデジタル化資料の一部が自宅に居ながら閲覧できるサービスのことです。

国立国会図書館には、デジタル化された資料が約 311 万点あります。そのうち絶版等の理由で入手が困難なもの約 152 万点に、ご自身の端末（パソコン、タブレット等）からアクセスすることができるようになりました。

これまでは登録された図書館（姫路市では城内図書館）の館内にあるパソコンからしか閲覧できなかったものが、利用登録すれば自宅でいつでも見ることができるのです。著作権保護期間満了等の約 57 万点は以前からインターネットで公開されていましたが、もっと貴重な資料がたくさん閲覧できるようになりました。

現在は閲覧のみですが、2023 年 1 月からはプリントアウトもできるようになります。

デジタル化された資料にはどのようなものがあるか、いくつかご紹介します。



### 『映画情報』

国際情報社／出版の雑誌が 1936 年から 1985 年（昭和 11 年から 60 年）分まで閲覧できます。懐かしい映画スター達の写真も満載です。

### 『歌舞伎名作姿繪』

1800 年代の資料で、勧進帳や道成寺等、歌舞伎の名作の絵姿が色鮮やかに描かれています。

### 『春遊一覧双六』

明治 15 年発行のすごろくです。「魚市場」の振り出しから「初荷」の上がりまで、新春の行事や日常の生活まで様々な様子が描かれています。



利用には国立国会図書館の利用登録や利用規約への同意などが必要ですが、オンラインでの手続きが可能となっています。詳しくは国立国会図書館のホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) をご覧ください。

(梶原)

## 図書案内

### 『播磨国妖綺譚』

上田 早夕里/著 文藝春秋 (F-ウ)

室町時代、播磨国の律秀と呂秀の兄弟は構の燈泉寺の薬草園をあずかり、燈泉寺や廣峯神社に生薬を納め、病者を診て薬を方じ、祈禱で物の怪や禍を退ける法師陰陽師として活躍していました。そこへ、燈泉寺の使いから妙なうわさについて相談が持ち込まれました。兄弟は、うわさの原因は、蘆屋道満が使役していた魔物の一種・式神が村人を困らせていたことを突き止めます。(「第一話 井戸と、一つ火」)

この本には、物の怪の姿が見え、声が聞こえる呂秀と、弟を気遣う律秀が怪異を解決していく全6話が収められています。

姫路の三宅村と蘆屋道満の関わりについては『沿革考証姫路名勝誌—現代語訳』に記述があります。道満が播磨国に来た経緯として「藤原道長を呪詛し、(安倍)晴明によって暴かれて播磨国に追放された」と紹介されています。

(高濱)

## 今月の子どもの本

### 『オンボロやしきの人形たち』

フランシス・ホジソン・バーネット/作 尾崎 愛子/訳 平澤 朋子/絵  
徳間書店 (GY-バ)

主人公はビクトリア時代に作られた人形の家と、その家に住む6人の陽気な人形たちです。家は薄汚れ、洋服もボロボロのひどいありさまでしたが、人形たちはいつも楽しく暮らしていました。

持ち主のシンシアは、8歳の誕生日に新しい人形の家「ピカピカ城」をもらうと、おばあさんから譲り受けた古い人形の家を「オンボロやしき」と呼んで子ども部屋の隅に追いやってしまいます。それでも気立てのいい人形たちは新しい人形たちをうらやましがることなく、楽しく幸せな日々を送っていました。

ところがそんなある日人形たちにピンチが訪れます。ビクトリア女王の孫娘である王女がシンシアの家にやってくるため、乳母がオンボロやしきを燃やそうとしているのです。

さて、オンボロやしきの人形たちは、このピンチを切り抜けることができるのでしょうか。

小学校3年生以上の子どもたちに。

(坂根)